

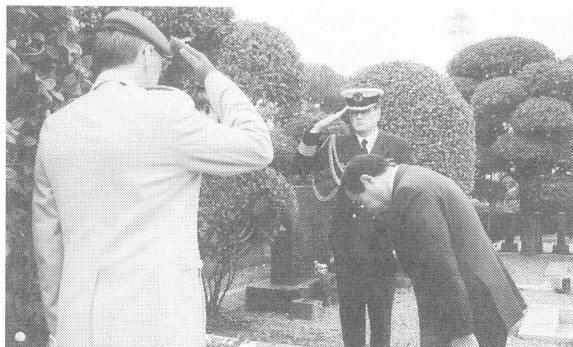
Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

ドイツ軍人追悼慰霊祭開催



山田課長に敬礼する両大佐



墓前にて

恒例の「ドイツ軍人追悼慰霊祭」は11月24日(日)に会員及び関係者43名を集めて船橋市習志野霊園において行われた。あいにくの曇り空の下、11時より、当協会西阪知晃事務局長の司会で国枝誠昭副会長の開会挨拶、黙祷、ドイツ国歌のテープに続きドイツ大使館国防武官ライムント・ヴァルナー大佐と平尾浩三会長、船橋市長代理山田明環境衛生課長による追悼慰霊の辞が捧げられた。病死された30名の御霊の紹介は、鈴木淑弘渉外担当常任理事が行ない、ドイツ軍人葬送歌“Der gute Kamerad”(良き仲間)をテープに合わせ合唱。大使館の「黒赤金」のリボンが付いた大きな花輪はヴァルナー大佐と後任のヘルムート・ゲーベル陸軍大佐が献花。平尾会長をはじめ参加者全員による献花に際しては、両大佐が両脇から一人一人に敬礼をして下さった。石崎家の墓参拝の後、昨年同様、レストラン「ココス」にて直会を行い2時過ぎに散会。

尚、ヴァルナー大佐より1万円、山田課長より5千円の御寄付があり、ドイツ軍人墓地整備基金に積み立てられた。

追悼・慰霊の辞 千葉県日独協会会長 平尾 浩三

尊敬する在日ドイツ連邦共和国大使館国防武官海軍大佐ライムント・ヴァルナー殿、同国防武官陸軍大佐ヘルムート・ゲーベル殿、船橋市長代理山田明殿、そしてご参列の皆様！ 千葉県日独協会の名において、ここに心からなるご挨拶を申し上げます。

ここ習志野には、第一次大戦当時、ドイツ将兵のための捕虜収容所がございました。第一次大戦において、日本は、当時結ばれていた日英同盟に基づきドイツに対して戦い、ドイツの租借地であったチンタオを攻略して、約四千七百名のドイツ将兵を日本へ移送したのでありますが、内千名近くの方々が、ここ習志野の地に収容されておられたのであります。

ここに置かれていたのは確かに「捕虜収容所」でした。しかし第二次大戦に見られたような、そして今日の世界になお跡を絶たないような、悲惨と残酷を、そこに思い描くべきではありません。捕虜として暮らすドイツの方々の方々の毅然たる生活態度と秩序愛に、私達日本人は感動し、捕虜の方々の行動に接して、私達はいよますますドイツ文化を愛し、尊敬するに至ったのであります。国際政治的次元における対立関係にもかかわらず、両国民間の友情は、この体験によって、いっそう固められたのであります。

エピソードの一つ。わが日独協会理事・歌田実さんのご母堂はこの地の小学校訓導であられました。生徒たちを連れて収容所をしばしば慰問に訪問され、ある捕虜の方から手作りのポトルシツプをプレゼントされ、それは今なお習志野市庁舎に飾られているのであります。

捕虜の方々は大部分、戦後、帰国なさったのですが、約三十名の方々は、暴威を振るつたスペイン風邪のために、祖国の土を二度と踏むことなく、悲しいかな、ここ習志野の地に亡くなられました。異国で斃られた方々のご冥福を祈り、全地球上に平和の訪れんことを、切に、切に願いつつ、私たちはききょう、この墓標の前に立つ。そして遥けきドイツ・シヴアルツヴァルトよりこの庭に移し植えられたドイツ柏の下に行む。

ここに感謝をこめて挙げさせていただきたいのは、故石崎申之氏のお名前であり、石崎氏は、わが日独協会の設立されるまでのある時期にはかなり荒廃していたお墓を、献身的にお世話下さりました。そしてその志を継がれたご令息、医学博士石崎満氏は、本日もご参列くださっております。

終わりに思い出を一つ。ここに祀られている方々と共に、捕虜としてこの地に過ごし、第一次大戦後帰国されたが、後に再び来日し、亡くなるまで日本に暮らされたあるドイツ紳士(注)を、私は直接に存じ上げておりました。いつも多くの日本人の友達と弟子に囲まれておられたその紳士が、私たちに教えてくださった詩から引用いたします。

人の心は 水にぞ似たる 天より来たりて 天へと昇り

そしてふたたび 天下りくる 永遠に 絶ゆるなく (ゲーテ)

(注) ハンス・ユーパーシヤール教授

滞日ドイツ人学生との親善バスハイク「房総の日独交流の足跡を訪ねて」

千葉県日独協会協賛

秋恒例の滞日ドイツ人学生との親善バスハイクは去る10月20日(日)に行われ、バス3台の定員オーバーを心配する程の盛況ぶりであった。ドイツ人学生、研修生約30名、日本側は学生約20名に、旧海軍兵学校77期有志訪独親善合唱団「7Chor」の参加者19名、それに東京・千葉県両日独協会会員、計135名が参加を得た。

朝8時に出発、第一目的地の習志野霊園へ。雨という天気予報が見事に外れ、習志野霊園には9時前に到着。第1次大戦の折こ習志野捕虜収容所で過ごし、不幸にしてスペイン風邪のため病死した30名のドイツ兵の慰霊碑がある。昭和30年(1955)初代ドイツ連邦共和国クroll駐日大使と関係者の努力で再建され、毎年11月の「ドイツ国民哀悼の日」(Volkstrauertag)にはドイツ大使館武官も墓参に訪れる。

平尾浩三千葉県日独協会会長の式辞に続いて、前述の海兵77期(最後の海兵)有志の訪独合唱団が鎮魂の歌を捧げる。Uhland 作詞(1809) Silcher 作曲(1825)の有名な戦友挽歌“Der gute Kamerad”に続き「海ゆかば」、これも2部合唱で捧げられた。

慰霊碑に献花(当協会・会長平尾浩三氏、ドイツ大使館二等書記官 Schmidt 氏(科学技術文化担当)、合唱団代表澤登典夫氏)に合わせ全員拝礼、霊園での行事を終える。

尚、この収容所で過ごした人たちが本邦初演の「美しき青きドナウ」が演奏されたり、日本に残留してドイツ語教師やハム・ソーセージ製造の指導に当たったりして、文字通り日独の文化交流に尽くした人も多い。(銀座レストラン「ケテルス」主人等)

12時に御宿の歴史民族資料館「五倫文庫」に到着。理学博士伊藤治昌館長と井上七郎御宿町長のお出迎えを

受ける。数々の民族資料と共に、世界各国の教科書が展示されており、江戸・明治時代やヴァイマル・第3帝国時代の教科書も身近に見学できるのは貴重であり(蔵書32,000冊)、また有名なドイツ幼児教育本 Der Struwwelpeter(ぼうぼう頭のペーター)の日本語版も展示販売されているユニークな資料館である。

次は、海辺のホテル「ニュー・ハワイ」(懇親会場)へ。東京日独協会および DAAD 友の会を代表して織田常務理事の挨拶、Schmidt 書記官の挨拶に続き、井上御宿町長の挨拶と乾杯の音頭(株式会社ハーモニックドライブ・システムズ社長伊藤光昌氏(当協会理事)令嬢美穂さん通訳)で懇親会に移る。50数種類の料理が用意されており、楽しい日独歓談のビュッフェ・パーティとなった。

懇親会の後は御宿海岸へ移動。詩人で抒情画家であった加藤まさかが大正12年に御宿海岸でイメージして作詞した「月の砂漠」の像は名物となっており、その脇に立つ「月の砂漠記念館」観覧に井上町長のお取り計らいで全員招待された。

最後は岸和田の田尻浜海岸の丘の上に聳え、太平洋を見下ろすメキシコ記念塔にへ。慶長14年(1609)に難破したイスパニア(現在メキシコ)船サンフランシスコ号の乗員317人を身をもって救った岸和田村民が300人余で村をあげて救済、これを記念して昭和3年に建立され、更に昭和53年(1978)メキシコのボルティエリョ大統領表敬訪問時の記念塔であると町役場の石田義広教育課長が説明された。

16時すぎ井上町長ほか関係者の皆様のお見送りを受けながらバスは一路アクアラインへ向かった。

尚このバスハイクで石崎理事は偶々、今秋入会したばかりの橋口昭八氏と50年ぶりに再会された。

～今後の主な催物案内～

▶ ワインの話と試飲会

- ・日時：2003年2月22日(土) 2:00～5:00P.M.
- ・場所：JR 総武線西千葉駅 南口前1分
プラザホテル(TEL:043-241-8051)内
喫茶「サン」
- ・会費：2500円
- ・講師：岩田勉氏(メルシャンワイン(株))
ワインの話あれこれ楽しく語って
いただきます。
- ・申込：同封のがきで1月末迄。

☆ ドイツ語教えます：

- ・個人又はグループ
- ・お問い合わせ：大河内ロスウィータさん
(当協会会員・ミュンヘン大学卒、元九州大学外国人教師)
- ・TEL：043-241-3680
- ・場所：千葉市中央区春日(JR 西千葉駅徒歩3分)
- ・授業料：グループ 1人 1000円/時間
個人 3000円/時間

7コア合唱団、中央石崎氏、一人おいて右に歌田氏



挨拶する織田常務理事、右へ河村理事、シュミット氏、井上町長、伊藤美穂さん、伊藤治昌元町長